

飯南

い
い
な
ん

議会報

- 02 12月定例会 可決された主な議案
- 03 年頭のごあいさつ
平成26年度 一般会計補正予算
- 04 一般質問
- 09 討論・採決の結果
- 10 視察・研修報告
- 12 常任委員会報告
議会活動報告
議会全員協議会の議題
- 14 明日を拓く

第40号
平成27年2月20日



12月定例会終わる

12月9日から19日まで、11日間の日程で開きました。

(株)フロンティアあかぎを指定管理者にしている「飯南町ふるさと森」(旧県民の森)の契約が今年度末に終了するに伴い、松江市の(株)ラウを指定管理者とする議案が提出されました。

応募者は(株)ラウ以外に2者でした。宿泊施設「もりのす」の活用方針がレストラン・宴会・パーティー・宿泊など具体的であったため、(株)ラウに指定したいという内容で、指定管理料は年間1800万円を上限とし、指定期間5年とするものです。

過去、町内の宿泊施設を指定管理した会社(本社・東京都)の経営方針が施設活性化につながらなかったことを踏まえ、経営実態のつかみにくい町外の業者への指定を審査するにあたり、特に慎重になりました。

(株)ラウのこれまでの実績(大田市の福光海岸レストラン「ピララウ」・雲南市の出雲湯村温泉「オーベルジュ雲南」などの管理状況)を精査し、可決しました。

「可決された主な議案」

■認定

平成25年度飯南町各会計歳入歳出決算認定

■承認

平成26年度飯南町一般会計補正予算(第6号)

■条例関係

飯南町の一般職の任期付職員の採用等に関する条例の制定など8件

■補正予算

平成26年度飯南町一般会計補正予算(第7号)など6件

■諸議案

公の施設(飯南町ふるさと森)の指定管理者の指定など2件

年頭の「あいさつ」

飯南町議会議長 難波俊司



新年明けましておめでとうございます。皆様にとって、昨年ほど賑やかな年ではなかったでしょうか。

多くの死傷者や甚大な被害をもたらす自然災害が全国で多発しておりますが、本町では大きな災害もなく安堵しております。しかし災害予測は難しく、日頃からの防災対策が重要です。

さて、本町の基幹産業である農業。今回の米価下落は、生産者にこれまでにない大きな打撃を与えました。既に今年の米作りの準備は始まっていますが、米価の今後の予測もできかねます。国・県・町・JAなど、農業関係者が一体となって、本腰を入れて取り組まなければ、本町の農業はもとより、日本の農業(稲作)衰退が急速に進んでいくと懸念され、生産意欲が湧く抜本的対策が急がれます。また、水清らかで豊かな自然に恵まれた条件を活かした、特産品開発も必要です。

本町発展のため、議会は全力を傾注してまいります。皆様のご指導、ご意見をお寄せいただきますようお願い申し上げます。皆様のご多幸、ご健勝をお祈りして、年頭のごあいさつとします。

【平成26年度 一般会計補正予算】

公債費長期債線上償還、ふるさと応援基金積立、赤名小学校大規模改修設計事業ほか

1億6865万円増額

各会計	補正予算額	予算総額
一般会計	1億6865万円	88億4164万円
特別会計	国民健康保険事業	6億9137万円
	介護保険サービス事業	2691万円
	簡易水道事業	3億5742万円
	下水道事業	4億2225万円
	病院事業会計	11億3779万円

一般質問

12月定例会

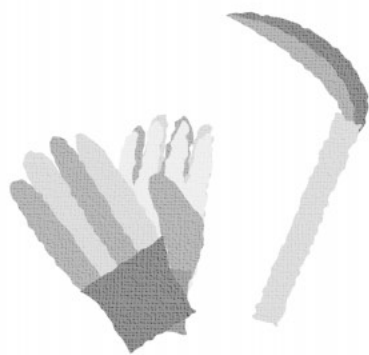


伊藤 好晴 議員

Q米の大暴落 対策を

米が大暴落し、本町においても、「もう百姓やめたい」という声が聞かれる。離農者がどんどん出れば、町がなくなる危機感も生まれる。

過剰米の市場からの隔離など、政府の責任で需給安定を図る。直接支払交付金の半減措置を撤回し、昨年と同額にする。過去3年間の平均生産費と販売価格との差額を補填する不足払い制度の創設。生産調整には政府が責任を持ち、水田活用交付金の充実など、米以外の作物の成り立つ条件を抜本的に整える。国内産を圧迫しているミニマム・アクセス米の輸入義務の中止が必要と考えるがどうか。



Aまず担い手 支援を

町長 山崎 英樹

生産費と販売価格の差額補填、不足払い制度創設時も、買いたたきが起こった。現行制度、ならし対策への移行を活用する。農地の集積をしつかりやるべきと思う。

米以外の作物が成り立つ条件を抜本的にとることには全く同感。水田フル活用ビジョンについて、作物ごとの取り組み方針を策定する。

ミニマム・アクセス米の輸入義務中止については、中止できればいいと思うが、外国との約束を破ることになる。

※直接支払交付金
米の生産数量目標を守って生産を行った販売農家・集落営農に対して全国一律単価で交付される。
平成22年産米から導入され、10アール当たり15000円が支給されていたが、平成26年産米から支給額が7500円/10aに半減、平成30年産米からは廃止される。

Q学習支援館 見直しを

学習支援館を委託している(株)山進は、代表者の名前が登記簿と違う。山口進学塾が2団体あり、本町と関連があること、収支報告書の内容が不自然なことが明らかになった。調べれば調べるほど疑問が深まる。

払拭のため、抜本的解決を図るべき。委託している(株)山進との決別が妥当だ。

決別は簡単だが、学習支援館に通い、頼りにしている生徒がいるのは事実で、路頭に迷わすことは許されない。悔いを残さぬよう善処しなくてはならない。

まだまだ深めなくてはならないが、教育委員会任せにせず、町全体で取り組むべきと考えるがどうか。

A良い形での 運営に

町長 山崎 英樹

支援館の疑問を、一般質問という形でいただいた。教育長の答弁で説明が尽くされたと思っていない。しっかりと調査し、本当にいい形で運営できるよう努めていく。

A一つずつ 検証して

教育長 安部 亘

何よりも子どもたちに影響があつてはならない。
質問内容のさまざまな項目について、一つずつ検証し、よいものにしていきたい。



学習支援館

一般質問

12月定例会



門 眞一郎 議員

Q自治組織 再構築を

赤来地域の自治組織は、それぞれの専門的知識や技術のある人に複数の自治会を横断的に担ってもらい、1人1役に限定することで負担の軽減を図るという目的で発足した。ところが運用される段階になって、集落はさらに担うべき役割が増加するという悪循環に陥り、10年が経過して活動実態がない部所もある組織がある。

自治組織の現状を調査し、組織を再構築する時期が来ているがどう考えるか。



町長 山崎 英樹

暮らしや生活環境向上のために、行政と補完しながら目的達成のための自主的な活動の展開を期待していた。

小学校区単位で必要な機能を集積するという案があるが、この単位で組織のあり方を研究する必要がある。

まちづくりを進める上で、自治振興組織の役割は重要だ。再構築を第二次総合振興計画策定において議論する。

A次の総合振興 計画で

Q農業振興計画は

町農業振興計画は、目標年度が平成27年で、事業は互いに関連があり、連携による相乗効果が成功の要だ。全体像を俯瞰したマネジメントが重要だが、誰がこれに当たるのか。また、急速な米価の下落と価格の先行き不透明感など、計画された年度と内容が異なってきた。

この計画が完成されて、目的どおり産業として成り立つまで、農家を町が支える必要があると考えるがどうか。

さらに、成功のためには消費者のイメージづくりが重要だ。消費者にとって商品や生産者などの持つ物語が「買いたい」の根拠になる。

そのためには、全体を貫く思想と、周知するための手段が必要だが、どう考えるのか。

A循環型を中心に

町長 山崎 英樹

全体のマネジメントは、企画会議で内部協議を行い、策定した町農林振興協議会の会長である私がリーダーシップ



堆肥センター

をとり、確実な計画の遂行と効果を発揮できるように努める。
農家経営の下支えは、農業振興計画がスタートした矢先に米価が下落、農家の生産意欲減退が懸念されるので、生産者の声を国・県に届ける。消費者のイメージづくりは、優良堆肥の活用によるエコロジミ、高原野菜、和牛など、有機的に結びつけ行う。この循環型農業の思想が全体を貫く姿勢と思う。
理念周知のため、本町のまちづくり、生命地域飯南町など、町全体をPRしていく。

一般質問

12月定例会



永井 章 議員

Q畜産振興策を問う

問う

A新たな方針で振興

Q和牛振興は

現在の飼育農家は、合併当時より半減している。繁殖頭数の減少もあって、家畜市場での子牛価格が高値で推移している。

平成27年度の目標頭数は300頭だが、達成の見通しはどうか。

A300頭を目標に

町長 山崎 英樹

肥育センターでの新たな運営計画による増頭、酪農家の受精卵移植による増頭で、300頭を目指す。

Q頓原肥育センターの運営は

J A雲南がキャトルステーションとして運営し、1市2町で集落畜産の導入支援など繁殖基盤を強化するとしている。

経過と運営方針はどうか。

A運営方針に変更が

町長 山崎 英樹

事業主体はJ A雲南だが運営方針に変更があった。

下の牛舎で肥育実証施設と受精卵産子の雄を飼育する。上の牛舎は、採卵用繁殖雌牛、受精卵産子の雌牛、農家の預かり牛の飼育を想定している。

Q全国和牛能力共進会の対応は

今回は平成29年に宮城県仙台市で開催される。県は長崎全共の成績が惨敗に終わった経験から、重要な大会と位置づけている。宮城全共への本町の対応はどうか。

A女性グループに期待

町長 山崎 英樹

県の出品対策方針が決定された。

本町では、総合評価群7区の種雄牛を「恵茂勝」に決定し、すでに受精卵移植を開始、酪農家と和牛農家に協力を依頼している。前回どおり、GYU・牛会、女性グループの活躍を期待している。

Qふるさと応援金は

Aまちづくりにも活用

町長 山崎 英樹

寄附金は、ふるさと応援寄附実践事業として、まちづくり事業に活用させてもらっている。

Q実績と運用状況は

今日までに3900万円余が寄せられ、町づくり事業の財源として活用されている。事業の実績と運用状況はどうなっているか。

Aまちづくり事業に活用

寄附金は、ふるさと応援寄附実践事業として、まちづくり事業に活用させてもらっている。

事業の実績は、環境を守る森づくり670万円、将来を担う人材の育成に1240万円、安心な地域医療の対策に1130万円、高齢者にやさしい福祉に640万円。

運用状況は寄附者に直接郵送で報告、ホームページと町広報で公開している。

Q寄付金の有効活用を

寄附金は次年度の事業区分ごとに予算に計上されるが、約1億円と見込まれる。十分検討のうえ事業の効果があがる有効活用を求める。

A事業4分野を見直す

町長 山崎 英樹

来年度は、寄附金が1億円になる見込みだ。また、条例で定める4分野の事業の見直しを検討する。

Q人口減少対策は

Q対策の基本方針は

町の人口予測は、本年10月の5150人が、平成52年には2976人となっている。人口減少問題は、あらゆる分野に大きな影響を及ぼす。自治体の力が試されようとしている。

来年度予算編成期を迎え、基本方針はどうか。

A一貫して過疎対策に

町長 山崎 英樹

過疎という言葉が使われて以来、一貫して取り組んでいる。

「雇用を増やす、子どもを増やす、安心な暮らしを守る」という3つの重点施策のさらなる推進を目指す。

Qソフト事業支援を

幅広い「ソフト事業」の支援強化が強く求められる。「住みよい地域創造事業」は3年間の限定事業であるが、将来どのような展開を期待するのか。

A地域課題対応を

町長 山崎 英樹

地域課題を解決していく地域に合ったシステムづくり、地域運営ができるシステムづくりなどが生まれてほしいと思っている。



ソフト事業に取り組む志々公民館

QNPO等の育成を

ソフト事業の推進には人材育成と活用が重要視される。「NPO等の育成」を目指すべきと考えるが。

A既存の団体に期待

町長 山崎 英樹

地域おこし協力隊には、現在7名配置している。将来的

にNPOなど、一つの形になるよう期待する。

Q地域おこしは

地域の拠点施設を生かし、住民自ら立ち上がる組織が求められる。公民館単位の取り組みをさらに展開できる財政支援の検討を求める。

A助力を惜しまない

町長 山崎 英樹

課題解決を自ら考え行動する、そして安定した形となるよう組織化する。住民自治の基本と考え、人材育成に惜しまない力を注ぐ。

Q地方創生の対応は

国は「地方創生」に向けて自由度の高い交付金を考えられている。何に焦点を当て行動を起こす考えか。

A人口増加への活用を

町長 山崎 英樹

町民が安心して暮らせる飯南町、その上に立って人口増加に有効活用したい。

Q鳥獣害対策は

Q被害防止が困難に

猟友会会員の激減と高齢化で被害防止が困難になりつつある。どう対応するのか。

国の対策の中に、民間業者などに捕獲を委託する。住民が報酬をもらって駆除することができると鳥獣害対策実施隊の設置がある。こうした対策への対応は。

A猟友会との連携で

町長 山崎 英樹

猟友会との連携による有害鳥獣捕獲体制を基本としている。民間業者への委託は想定していない。

猟友会との協議により平成23年度に鳥獣被害対策実施隊を設置した。今後も被害防止対策に努める。



一般質問

12月定例会



長島 正一 議員



熊谷 兼樹 議員

Q 教育行政を問う

A 子どもと保護者のために

Q 改正教育行政法の対応は
教育行政法改正にどう対応するのか。速やかに移行したほうが教育行政にとってよいのではないか。

A 私の任期までは旧制度で
教育長 安部 亘

責任の明確化、政治的中立性の存続、地方公共団体の長と教育委員会との連携の強化、地方に対する国の関与の見直しが定められた。趣旨を十分理解し、教育長としての責任を果たす。

新体制への移行は、現教育長の任期満了まで旧制度が生きた内容になっている。

A 迅速な対応も可能

教育委員長 島田 勝信

新制度では、教育長が教育委員長を兼ねる。権限と責任の所在が明確になり、迅速な対応も可能になる。

新制度に移行したら、教育委員として力を尽くしたい。

A 3月定例会に提案する
町長 山崎 英樹

3月定例会に関連する条例、人事案件を提案する。

Q 学力低下への取り組みは

週5日制導入以来、学力低下問題が発生した。文部科学省は土曜学習の場を提供する制度創設を市区町村に促していく方針だ。どう考えるのか。校長、教頭が土曜日に教育支援をやっているところがあるが、本町でもできないか。

A 学習支援を推進

教育長 安部 亘

首長の判断による土曜授業が可能になった。「土曜日の教育活動推進プロジェクト」も示されている。

学習支援館には地域の環境づくりという役割もあり、土曜学習を進めていく組織と考

えたい。校長等については慎重に対応する。



生涯学習センター

Q 発達障害への対応は

特別支援教室が設置されているが、保護者に対する相談体制が十分でない。県の取り組み、本町の考えはどうか。

A 一貫したサポートを

教育長 安部 亘

発達障害者支援センターが本町へ出向いて相談にのることは困難だ。本町では通級指導教室で保護者への助言等を行っている。

関係者との連携により、出生から高校卒業まで一貫したサポートができるものを検討している。

Q 学校統廃合の今後は

学校統廃合をどう考えているのか。小学校は複式学級になっていく可能性がある。教育環境をどう守るかが大切だ。保護者や住民に理解されるよう、情報をきちんと発信すべきだ。

A 統廃合は考えていない

教育長 安部 亘

学校の統廃合は首長の判断で行う。町長は統廃合は考えていない。私も同様だ。一緒に検討していく。保護者には、あらゆる機会を通じて情報提供したい。

併せて、人口対策と耕畜連携についての質問がありました。

討論

平成25年度飯南町各会計歳入歳出決算認定

反対討論 伊藤 好晴 議員

指定管理料、業務委託料

営業内容を精査し、業務の縮小、撤退も含め、再検討すべき。学習支援館

受講していない生徒の状況、受講しない理由など、把握して対策を打つべき。

業務委託を受けている会社の報告書の内容は信用できない。灯油地下タンク高精度油面設置工事

この事業は国の補助が受けられるが、精査されていない。危険度が高い地下タンクでなく、メンテナンスが向上する地上タンクも可能だったはずだ。

本事業にかかわらず、事業の立案に当たって専門家の意見を聞くなど、調査・研究を徹底し、最低限の予算で最大の成果を上げることが目指すべきだ。

国民健康保険事業特別会計

予定される国保の県内一本化に向けての政策もあろうが、このまま推移すると保険料の支払いが難しくなる世帯が発生する可能性を否定できない。

飯南町の一般職の任期付職員の採用に関する条例の制定

賛成討論 永井 章 議員

平成14年の労働法改正で地方公共団体においても3年・5年の有期雇用ができるようになった

反対討論 伊藤 好晴 議員

1、任期付職員制度の導入は不安定な職種をふやすことになり、社会の要請に背くものだ。

2、地方自治法や地方公務員法が前提にしているのは、安定した公務労働による住民サービスであり、この制度では矛盾が生じる。

継続性と安定性が求められる公務労働のあり方として、有期雇用制を認めることはできない。

賛成討論 小野 覚 議員

地方公共団体では、地方分権がさまざまな形で進められ、高度の専門性が求められる事務や、多様化する住民のニーズに迅速かつ的確に対応することが急がれる。この条例は適正な制度運用により、町民の利益の向上につながる。

全18議案のうち、反対があった議案の採決結果は次のとおりです。

件名	結果	高橋英次	早稲雄徹	内藤眞一	熊谷兼樹	門眞一郎	長島正一	永井章	伊藤好晴	小野覚
平成25年度飯南町各会計歳入歳出決算認定	認定	○	○	○	○	○	○	○	●	○
飯南町の一般職の任期付職員の採用等に関する条例の制定	可決	○	○	○	○	○	○	○	●	○

○賛成議員 ●反対議員

【第7回臨時会(10月27日開催)】

平成26年度飯南町一般会計予算(第5号)を全会一致で可決



一福のそば詰合せセット
・銀山街道赤名宿
・そば茶・細乾麺
・ざるの季節
・そばの実ドレッシング各1個



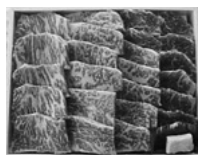
赤名酒造の清酒セット
・玉依姫(純米酒)
720ml×3本
飯南町産酒造好適米
100%使用



いのししセット
・いのっち中華まん5個
・いのしし味噌漬(150g)2個
・燻製バラ肉約150g
・ウインナー1個(3本入り)



特産品詰合せセット
・りんごジャム・乾燥舞茸
・炊き込みごはんの素
・十二健穀米(もち米)等
(季節により内容は変わります。)



奥出雲和牛(焼肉用)
・焼肉用(赤身)500g
(クール宅急便)



奥出雲和牛(しゃぶしゃぶ用)
・しゃぶしゃぶ用400g
(クール宅急便)



奥出雲和牛(すきやき用)
・すきやき用550g
(クール宅急便)



もりのす宿泊割引券
・森林セラピー基地内「森のホテルもりのす」
宿泊5,000円引き券

※ふるさと納税特典の一例です。

平成26年度ふるさと納税 1億円達成に近づく

おいしい特典も人気の一因?

飯南町ふるさと納税が、あと一歩で一億円に迫る勢いです。納税のお礼に揃えた特典も人気で、寄附金1万円(2口)以上で左に掲載した特典を1点進呈、3万円以上の寄附にはより豪華な特典が用意されています。皆さんも飯南町出身の親戚やお知り合いに教えてあげてね。

総務厚生常任委員会

平成26年10月14日～16日
鹿兒島県鹿屋市・志布志市
委員長 小野 覺

鹿兒島県鹿屋市柳谷集落

「行政に頼らない、感動の地域づくり」の理念のもと、集落活動に取り組んでおられた。柳谷集落の人口は300人、高齢化比率は40%超で、存続が危惧された時期もあったそう。

「地域を再生するためには行政や補助金に頼っていないは駄目だ、そこには感動がない」とリーダーの豊重哲郎氏。その理念のもと、土



集落についての説明を受ける

着菌を活用した悪臭除去などの環境対策、独居老人宅への緊急通報装置の設置、財源確保のためのサツマイモ生産など、地区民全員が参加できる事業を行っておられる。また、空き家を改修し、芸術家を呼び込み、画家、陶芸家、写真家など7人が移住し活動しているとのこと。

「台風通過後、最初に通れる道は柳谷の道路だと言われる。それは住民全員で道路掃除をするからです」と豊重さんが誇らしく語られた。



土着菌による堆肥製造施設



自学自習の情景



合奏を聴いて感動

鹿兒島県志布志市伊崎田保育園

「すべての子供が天才である。ダメな子なんて一人もない」
「すべての子供が天命をうけてこの世に生まれてきた。その天命を最大限に発揮させたい」の理念のもと、卒園までに全員が逆立ち歩きができ、5歳児で漢字が読み書きできるというユニークな「ヨコミネ式」子育てを実践されている。2歳児までは普通の保育園、幼稚園と同じで、3歳児から「自立」に向けての教育が始められている。

「ヨコミネ式教育法の究極の目的は自立だ。子どものやる気を起こし、子どもの持つ素晴らしい才能を開花させる。読み書き・計算・体操・音楽を通して、『学ぶ力、体力、心の力』をつけさせ、生まれ持っている可能性を最大限引き出す」と横峯理事長。

全員で計算問題など自学自習に取り組む姿、逆立ち歩き、背丈よりも高い跳び箱を軽々と跳ぶ、音楽の合奏など驚きだった。

教育経済常任委員会

平成26年10月15日～17日
高知県梛原町
委員長 熊谷 兼樹

自然エネルギー（太陽光・風力・水・木質バイオマス等）で、町内で使う電気をまかなう。梛原森林組合を中心に、大規模な木質バイオマス団地を形成し、地域循環型産業の振興と環境教育を推進している。また、本町とは森林セラピーへの取り組みで交流している。

目的
木質バイオマス事業の現状と今後の展望

○木質ペレットの現状

日本各地で、木質チップを燃料に使う発電施設が建設されている。これまで無償であった林地残材などが高騰、製造、輸送コストも上昇し、消費を圧迫している。

○林道整備

梛原町の林道は、1ha当たり100m程度整備される。長期間利用する目的でしっかりとした整備と管理を行っているため、主要な公共事業になつていない。

○林業従事者

林業不況や高齢化によって、従事者が激減しているため、建設業者の林業参入を支援（高性能林業機械の導入・林道整備）している。



ストックヤードにあふれる木材



おが粉生産施設



役場で説明を受けました

研修で得たこと

木質バイオマス事業

本町でも木質バイオマス事業がスタートする。燃焼機器の価格、燃焼効率、燃料価格等しっかりとした事前調査が重要。

林道整備と木材の搬出

木質バイオマス発電所の建設によって木質資源（林地残材・BC級材・枝葉）の不足、価格の高騰が予測される。

また、林業従事者も、深刻な労働力不足の状況にあるので、建設事業者が林道工事と木材搬出をセットで請け負う仕組みが有効。

林業従事者の育成・確保

本町には、農林大学の林業科がある。町有林を演習フィールドとして提供し、林業後継者育成に寄与したらどうか。



教育経済 常任委員会

委員長 熊谷 兼樹



総務厚生 常任委員会

委員長 小野 寛

平成26年度 飯南町一般会計補正予算(第7号)

中山間地域直接支払事業 221万円 協定面積錯誤による交付金返還予算

水田面積に相違があるのではないかととの相談があつて、調査したところ、島根県土地改良事業団体連合会が換地計画書に誤記載したことが判明した。

初動段階の対応に疑問があり、今後のため検証を求めた。

ふるさとの森施設経常管理費 293万円 レストランのイス、テーブルなどの購入費

新たな指定管理者が決まっていない段階で予算計上することへの疑問や、指定管理者の意向を重視すべきとする意見があつた。

指定管理者制度について見直す必要があると判断し、意見を付した。

小学校大規模改修事業 1,458万円 赤名小学校の大規模改修のための設計委託料

過疎計画では26年度の計画であつたが、県との資源協議のなかで、平成27年の夏期休業中を中心に施工すると説明があつた。

公の施設(飯南町ふるさとの森)の 指定管理者の指定

公募の在り方について多くの議論があつた。意見を付し可決した。

審査意見

ふるさとの森施設経常管理費

指定管理者が代わろうとしている段階で、備品購入費計上は違和感がある。執行に配慮を求める。

公の施設(飯南町ふるさとの森)の 指定管理者の指定

本案に限らず、指定管理者公募の在り方について再考すべきである。

制度が始まって10年が経過し、様々な問題が指摘されている。公募についても、期間は妥当か、事前説明は万全か、要件は十分理解されているかなど、疑問が残る。その結果、応募者が限定されている感がある。

募集の方法を検討すべきだ。

平成26年度 飯南町一般会計補正予算(第7号)

〈歳入〉 ふるさと応援寄付金 3,000万円

12月15日現在、寄付申込額が6,544万円余に達し、今後増加する見通しであることから増額する。

減債基金繰入金 1億300万円

繰上償還の財源で、これにより今年度の減債基金から償還した額は2億5,300万円になり、実質公債費比率は14.2%になる見込み。

〈歳出〉 ふるさと応援寄付促進事業 939万円

寄付に対する、お礼の品を発送する事務委託料1,500件分などの経費。委員から、お礼の品の種類を増やすよう提案があつた。

老人福祉臨時管理費 80万円

老人福祉施設「まんてんの家」の修繕費だが、関連して、同施設のように町所有施設の払下げ提案があつた。「検討しているが、諸事情があることから現状では難しい」との説明をうけた。

飯南町の一般職の任期付職員の 採用等に関する条例

平成14年に公布・施行された法律にもとづき、専門的な知識経験・優れた識見を有する者を期間を定めて採用することで、職員の資質向上を図る。また、柔軟な任用・勤務形態により、最適な人員構成が期待できる。

飯南町放課後児童健全育成事業 の設備及び運営に関する基準を 定める条例

小学生のうち、保護者が労働などで昼間家庭にいない児童に放課後の遊びや生活の場を提供し、健全な育成を図る事業の基準を定める。

議会全員協議会の議題

10月27日

- ①雲南広域連合規約の一部を改正する規約(案)の説明
- ②介護保険法に基づく指定訪問介護事業所の指定取消
- ③飯南町行政改革推進委員会委員等の説明
- ④土砂災害避難勧告等ガイドラインの報告
- ⑤飯南エリアCS放送HD化工事の報告
- ⑥飯南エリアにおけるインターネット増速整備の報告
- ⑦飯南町人口対策の報告
- ⑧任期付の職員採用の報告

12月17日

- ①国道54号改正災害対策基本法の適用報告
- ②公営住宅用地取得の報告
- ③まちづくり条例中間報告
- ④知事要望の結果報告
- ⑤合併10周年記念式典開催の報告
- ⑥庁舎等建設スケジュールの報告
- ⑦観光支援組織の説明
- ⑧新教育委員会制度の説明
- ⑨ビニールハウスの雪害状況の説明

議会活動報告 [10月~12月]

- 10月
- 6日 議会広報編集委員会:紙面校正
 - 7日 決算審査特別委員会:総務課、企画財政課
 - 8日 島根県町村議会議長会全議員研修会(松江市)
 - 10日 決算審査特別委員会:住民課
 - 14日~16日 総務厚生常任委員会視察研修(鹿児島県鹿屋市、志布志市)
 - 15日~17日 教育経済常任委員会(高知県梼原市、愛媛県東温市)
 - 20日 議会運営委員会視察研修(鳥取県日南町)
 - 22日 雲南地域議会議長連絡会研修会(奥出雲町)
 - 24日 決算審査特別委員会:飯南病院、産業振興課
 - 25日 島根県種畜共進会(松江市)
 - 27日 議会運営委員会
臨時議会、全員協議会
雲南市・飯南町事務組合議会定例会
 - 28日 雲南広域連合議会議員研修会(雲南市、奥出雲町、飯南町)
- 11月
- 4日 決算審査特別委員会:建設課、保健福祉課
 - 11日 決算審査特別委員会:教育委員会、社会福祉協議会
 - 14日 島根県中央子牛共進会(松江市)
 - 17日 決算審査特別委員会:JA雲南、(株)飯南トータルサポート、飯南町商工会

- 12月
- 19日 酒づくり交流館視察
 - 21日 決算審査特別委員会:フロンティアあかぎ、とんぼら総合開発(株)、備前赤来交通
 - 25日 決算審査特別委員会:現地調査
 - 28日 教育経済常任委員会:閉会中の調査
 - 1日 決算審査特別委員会:まとめ
 - 4日 決算審査特別委員会:まとめ
 - 5日 議会運営委員会:12月定例会の提出議案、日程ほかの協議
 - 9日 12月定例会:本会議、町長行政報告、提出議案の説明、質疑
 - 12日 :本会議、一般質問
 - 15日 :委員会審査
 - 16日 :委員会審査
 - 17日 :全員協議会・委員会審査
 - 18日 :委員会審査
 - 19日 12月定例会:本会議、討論、採決
 - 22日 議会広報編集委員会:編集作業
 - 24日 雲南広域連合連合議会定例会、雲南市・飯南町事務組合臨時会
 - 26日 議会広報編集委員会:編集作業

明日を拓く



番組編集中のケーブルテレビのスタッフ

地域の明日を伝えるCATV

過疎化が進む中山間地。最も避けたいことは情報過疎です。地域の情報を伝える手段のひとつ「CATV」、情報を隅々まで届けようと頑張っている姿を、ケーブルテレビのスタッフに聞きました。

やりがいを感じるときはいつ？

〈上田〉自分が制作したものが放映され、視聴者から「見たよ」「おもしろかったよ」と声をかけていただいたときです。

〈三上〉雪などでケーブルに障害が発生し、迅速に復旧できたときなどです。

どんな仕事に挑戦したいですか？

〈三上〉ケーブルテレビのインターネットは遅いという誤解があります。同軸でもまだまだ速度は上げられます。施設の能力を最大限引き出す努力をしたいです。

〈横貝〉唯一の女性職員として、母や妻、女性の感性を生かした番組制作をしたい。この町で大切にしなければいけないものを放送してみたいです。

〈上田〉島根県ケーブルテレビ協議会の取り組みで、各局が制作した番組を放送してもらえようになっていますが、飯南局から発信しているものはないのでつくってみたいと思います。

CATVの地域への役割は何ですか？

〈横貝〉地域を元気にしていきたい。

〈三上〉他局に負けないテレビ放送やサービスに努め、評価されるようになりたいですね。

〈上田〉地元に残っている若い人が残ってくれるためには、飯南高校はなくてはならないと思います。協力できることがあれば取り組み、例えば飯南高校報道部に作品発表の場を提供し、彼らのモチベーションを高められたいだろうかと思っています。



左から三上さんと横貝さんと上田さん



今月の表紙写真



町の畜産農家を訪ねてお話を聞きました。紙面と異なり、牛の息吹や飼育者とのコミュニケーションがリアルに伝わってくるのが映像です。面白い番組を作るには、やはり「人・物・金」が必要です。限られた予算の中、CATVの役割の一つには、地域の皆様が知った方がよいことを伝えることがあります。そんな番組づくりには「情報と知識」が求められますが、それは、スタッフだけでなく地域の皆様の理解と協力が大切です。

編集後記

明けましておめでとうございます。今季の冬の到来は早く、12月初旬からの積雪となりました。

師走には衆議院議員総選挙がおこなわれ、日本のかじ取りを再び安倍政権へ託すこととなりました。「地方創生」が叫ばれています。が、ばら撒きでなく真にこの地域の維持、発展になる政策であるよう議会も注視していかなくてはなりません。

私たちのこの地域は、厳しい自然環境の山間地域であります。様々な立場の人の支えあいで成り立っています。生まれ育った地域、あるいは縁あって移り住む地域、本町が住みよい町でありますよう、議員一丸となり頑張っております。

議会広報編集委員会 早樋 徹雄



議会広報編集委員会